

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	樋口聡先生のご退職記念に寄せて
Author(s)	須谷, 弥生
Citation	学習開発学研究 , 13 : 27 - 27
Issue Date	2021-03-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050801
Right	Copyright (c) 2021 広島大学大学院人間社会科学研究科学習開発学領域
Relation	



【随想】

樋口聡先生のご退職記念に寄せて

須谷 弥生¹

「学問は最高の遊びである」とは、私が広島大学に入学した頃に、広島大学のホームページのトップに掲げられていた言葉です。私がこの言葉を受け止め、理解できたと思ったのは、樋口先生との出会いを通してでした。指導教員の樋口聡先生との出会いは、学部2年次に開講された「教育の思想と原理」の講義でした。この講義では、脱領域化された視点から、さまざまな教育言説に対して批判的検討が加えられ、教育を取り巻く問題に対する新たな見方が呈示されていきました。教育という、どうしても方法論に目が向きがちになりますが、私はこの講義において、現実に対する見方を転換してくれる思想研究、哲学的研究と、その力を知りました。こうした背景と私自身の問題意識から、学部の2年間、博士課程前期の2年間、そして、博士課程後期の3年間、合わせて7年間という長い期間、樋口先生のゼミに所属させていただき、先生からご指導を賜りました。

樋口先生から教えていただいたことは数えきれませんが、中でも私にとって最も大きかったことは、教育学という学問への向き合い方であったと思います。学習開発は、これまでの学術研究の在り方への反省から、目の前の問題を解くために、細分化された教育領域を積極的に横断し、その時に必要とされる手法を取ります。樋口先生が論文指導の中で何度も協調されたのは、教育学という一つの領域に閉じこもって議論を展開するのではなく、人間文化、思想の一つとして教育という営みを捉えるという視点の面白さと重要性でした。誘われて修士論文と博士論文で依拠した、丸山圭三郎により解釈されたソシュール論である「丸山ソシュール論」が、その一つの例だと思えます。私は、丸山ソシュール論と丸山文化論を用いながら、言語哲学と文化哲学の視点から、学習の問題、特に知の社会的構成に関する問題を検討してきました。このような研究を可能にしてくれた丸山ソシュール論、丸山文化論との出会いは、私が研究に引き込まれるきっかけともなりました。私の世界を広げてくださった先生のご助言には、とても感謝しております。学問とラディカルな向き合い方をされている先生の講義は、いつもエキサイティングであり、クリエイティブな見方を得られる時間でした。

樋口先生と一緒に、韓国とオーストリアを訪問させていただいたことも、忘れられない思い出です。2017年には、釜山大学創立70周年記念事業「教育フォーラム」に招聘された先生と共に韓国の釜山を訪れ、2018年と2019年の秋には、シュタイナー学校や教員養成大学の見学、子どものための哲学会議への参加を目的として、オーストリアの都市グラーツを訪れました。特にオーストリア、グラーツでは、歴代の客員教授の先生方が私たちを迎えてくださり、樋口先生が大切にされてこられた交友関係の広さを感じたと同時に、世界中に研究仲間がいるということの素晴らしさを体感しました。これらの出来事をきっかけに、私も英語という道具を身につけて国際学会に向向き、海外に住みながらそれぞれの課題と向き合う研究者や教師と様々なトピックについて議論を交わしたい、という思いが募るようになりました。

スポーツ哲学、美学、教育学といった多領域において研究を展開されてきた樋口先生の研究業績は、後の世代によって連綿と受け継がれていくでしょう。その一翼を担うことができれば、指導学生としては嬉しい限りです。今年度、樋口先生は退職という一つの節目を迎えられますが、これを期に先生の研究に対する熱意が消えることはないでしょうし、一人の指導学生として、どうかその熱意を持ち続けていただきたい、と願います。これまでご指導くださったことに心より感謝申し上げますと共に、樋口先生の今度の益々のご活躍をお祈りいたします。

¹ 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期教育学習科学専攻学習開発学分野学習開発基礎・支援領域